

寄付キャンペーン 2016



子どもも若者もみんなが社会に参加し、それぞれのできる努力で進学、希望を実現できる社会を目指しています。委託事業の仕様書に基づいた活動だけではなく、子どもや若者が今必要としていることに現場で気づき、柔軟に必要なサポートを形にできる団体でありたいと思います。その柔軟性を保つには、自己資金がどうしても必要です。ご寄付を通したご協力、よろしくお願い致します。

1 子どもたちにお腹いっぱいのご飯を！ **目標！！**
昭和こども食堂 **¥20万円**

毎週月曜日に約20名の子どもから大人までが食べに来てくれています。共に食卓を囲み、自由な時間を過ごしながら子どもは色々な人と関わることで成長していく、そんな地域の居場所の一つとして親しまれています。お支払いが難しい方は寄付券で食べに来ていただくなどの支援も行っています。



寄付の
活用方法

宇都宮こども食堂サポートセンター開設
こども食堂への期待が高まり、やってみたいと思っている人も増えています。子どもたちにとって良いこども食堂が広がっていくようにセンターを開設し、始めたい人の相談や寄付頂いた野菜の融通、スタッフ向け研修等を行います。

2 何歳からでも学びなおせる教室 **目標！！**
寺子屋 **¥15万円**

中学校の不登校生や高校を中退をした方、経済的理由で塾等に行けない方を対象に宇都宮・高根沢・那須烏山・鹿沼で改めて勉強できるスペース寺子屋を運営しています。寺子屋は無料で利用することができ、どんな境遇でも再び勉強したいと思ったら気軽にチャレンジできる場所です。



寄付の
活用方法

教材・文房具の購入
寺子屋は元教員や社会人の方がボランティアの先生として勉強のサポートをしています。それぞれの目標に応じた学習のための教材(IC教材)や文房具を購入します。

合計目標
金額！！
105万円

3 失敗しても戻ってこられる場所がある **目標！！**
若者の居場所プログラム **¥35万円**

子猫が好奇心をもって外の世界を冒険しに行けるのは、怖い思いをしたときにすぐに母猫の足もとに戻れる安心感があるから。困っている若者の課題は様々ですが、実はそのほとんどが家庭内や学校時代に『そこに自分はいいいんだ』という自分の居場所を持たないままに大人になっています。嬉しいこと、つらいこと、できたこと、失敗したこと…社会で出会ういろいろな出来事を持って帰れる場所。居場所があるからがんばれる。それが若者の未来に向かう活力になると信じています。

寄付の
活用方法

居場所運営のための会場費・人件費に
居場所『ちょべり場』は、大学教授や複数の臨床心理士が運営しています。心の専門家の見守りの中だからこそできる若者にとって安心な空間。そんな居場所を守り続けたいです。

4 シゴトの現場で経験を積む **目標！！**
中間的就労訓練 しごとや **¥35万円**

社会に近い環境で実践的な就労体験の場を作り、段階的に就労へとつなげる中間的就労への取り組みを行っております。企業や農家の協力を得て、地域社会で若者を育てるこの中間的就労が全国に広がり、就労を目指す若者たちが一人でも多く目標を達成できることを期待し活動しています。



寄付の
活用方法

活動現場の維持・管理費、スタッフ人件費に
一日を通して訓練への参加が困難な若者のステップとなるよう、2～3時間軽作業をするプログラムを実施しています。半日プログラム参加者14名(うち就労訓練へつながった若者9名)

キャンペーン期間 2016 12/1 ～ 2017 1/31 まで ご寄付いただいた方は、機構の通信やホームページ等でご紹介させていただきます

目的指定寄付 ①昭和こども ②寺子屋 ③若者の居場所プログラム ④中間的就労訓練 ⑤子ども・若者の支援活動全般

方法

①事務局へご持参いただく or スタッフに手渡しいただく

②お振込み ゆうちょ銀行から 記号 001007 番号 451184

ゆうちょ銀行以外からの振込み ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 口座番号 0451184

